

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	ヒューマンアート (Human Art)		
ナンバリングコード	A20403	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎科目 / 標準レベル 特色科目
単位数	2	配当学年 / 開講期	1年 / 後期
必修・選択区分	選択 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A030751	クラス名	-
担当教員名	島岡 成治、近藤 正一、星芝 貴行、西村 謙司、坂井 美穂、藪内 聡和、足立 元、坪倉 篤		
履修上の注意、履修条件	ありません ※講義はオムニバス形式で行われます。ゲストの方が担当する場合があります。マナーを守って遅刻・欠席はしないように心がけてください。 ※授業開始前に携帯電話の電源を切ってカバンの中に入れておいてください。メールやインターネット等、IT機器類の使用は禁止します。使用している場合には即刻退室を命じます。なお、机の上や棚に置いている場合も、使用中とみなします。		
教科書	使用しません。		
参考文献及び指定図書	各講義で担当教員から提示されます。		
関連科目	人間力概論、コミュニケーション演習、大分学・大分楽		

○基本情報	
授業の目的	人間の生活のさまざまな場面において、そこにある美を感じることは豊かな生活を創造することに通じます。そして、さまざまな美を愛しむための知識を獲得することは、豊かな人間性(人間力)を育むためにもきわめて重要です。この講義を通して、生活の中にある美に気づき、心ときめかせるようになって欲しいものです。
授業の概要	美しいものを美しいと感じ取るための知識・方法を学び、美を愛でることのできるバランスのよい思考と感性の育成を目指します。さらに、日本また大分の文化に根ざした様々な芸術や諸外国の芸術作品に触れる機会を提供し、そこから大分の文化を理解してもらいます。 授業ごとに小論文を作成してもらいますが、受講者数が多いため添削・返却はしません。この評価は「○到達目標に対する到達度の目安、および、成績評価の目安」を参照して下さい。 なお、講師の都合でシラバスに示した授業内容や実施日(順番)を変更することがあります。その際には前もって変更内容を伝えますので、他の授業と同様に、しっかりと受講準備をするように心掛けてください。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「オムニバス方式」 (3) アクティブ・ラーニング 「該当なし」
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目
実務経験のある教員による授業科目	該当なし

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	理由のない遅刻や欠席がなく、取り組む姿勢が適正である			30点
【知識・理解】	各講義の「主題」を正確に把握できる		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	講義の内容に対する意見・感想が明確に記述できる レポートが丁寧に読みやすく書ける		25点	
【思考・判断・創造】	授業内容に基づき、十分に思考を巡らせることができる 講義内容を文化・芸術とのかかわりまで展開できる		25点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
授業ごとにレポートを作成・提出します。そして、15回目には振り返りの小論文を作成します。これらと出席状況で成績を決定します。 各回ごとに提出されたレポートは、丁寧に読み易いかを見定めた後、「その他」に示した基準で採点をします。成績評価においては、採点結果を集計し、その平均点の15倍を評価点(45点満点)とします。 最終レポートは25点満点で「成績評価の指標」に示した「到達目標」の下の3項目(細目5要件)に基づき評価します。なお、配点は細目ごとに4点とします。そして、自身が新たに学ぶことできたと思うことについての記述に5点を配します。 【関心・意欲・態度】については、出席状況で評価します。出席点を30点満点とします。なお、公欠や正当な理由のある場合は申し出てください。その状況に応じて対処します。ただし、その際に課された「課題レポート」が提出されない場合は、欠席として扱います。課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。	

○その他	
【レポートの評価基準】	○講義内容(もしくは指示事項)に関する意見・感想が丁寧な字で十分に記述されている:3点 ○講義内容(もしくは指示事項)に関する意見・感想が判読可能な文字でおおよそ記述されている:2点 ○講義内容(もしくは指示事項)に関する意見・感想がほとんど記述されていない:1点 ○提出はされているが、文字数が不足していたり、文字が読み取り難い場合:0点
【最終レポートの作成方法】	「成績評価の補足」で示した5項目を満足するように論述してください。ただし、論述対象は受講した講義から一つだけ選び、その講義を受けて、新たに自分が学ぶことができたと思うこと、そしてその知識を今後どのように活かそうと思っているかについて記述してください。講義の選定において複数を選んだ場合は、個々について評価し、その内の最も低い評価を採点しますので注意してください。
【成績評価基準】	S評価: 90点以上 A評価: 80点以上90点未満 B評価: 70点以上80点未満 C評価: 60点以上70点未満 E評価: 60点未満

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	ヒューマンアート (Human Art)	授業コード	A030751
	担当教員	島岡 成治、近藤 正一、星芝 貴行、西村 謙司、坂井 美穂、藪内 聡和、足立 元、		
学修内容				
1. ガイダンス《島岡成治》				
シラバスにもとづいて講義の概要を解説します。 この講義における『アート』は、本来「アート」が持つ範囲を開放しています。それゆえ、個別の内容に違和感を持つ部分もあるかも知れません。そこで、第1回目の講義では、個々が持つ固定観念を拭き去ることから始めたいと思います。第一回目から小論文を作成してもらいますので、筆記用具は必ず持参してください。				
予習	シラバスを熟読してください。また、アートと表される事柄にはどのようなものがあるかを調べてください。			約2時間
復習	この講義名になっている「ヒューマンアート」とは何か、今現在の自分なりの考えをまとめてください。			約2時間
2. 「人間と芸術」《西村謙司》				
「ヒューマンアート」という言葉の意味を考えることによって、この授業の目的と意義を確認します。また、芸術的な作品制作に取り組む建築家の活動内容を紹介します。そのなかで、建築というものづくりのあり方の技術的側面と芸術的側面の二面に焦点をあて、技術と芸術の相異について解説します。人間との関わりを大切に「ものづくり」に関わる際の基本的なあり方の指針を学ぶことをめざします。				
予習	「ヒューマンアート」という言葉の意味について、種々のメディアを介して調査し、考えて下さい。			約2時間
復習	人間との関係を大切に制作された芸術(絵画、彫刻、音楽、文芸、建築等)について調べてください。			約2時間
3. 「いろいろいろいろ」(色彩の基礎)《近藤正一》				
色と光と知覚との関係、色の表現の仕方と色彩調和の方法について解説します。適切な色彩を正確に伝達するための基礎知識を学ぶことにより、表色系の意味を理解し、色彩調和に関する基礎的な知識を身につけます。				
予習	色彩にかかわるエピソードを考えてきてください。			約2時間
復習	講義を踏まえて色彩調和についてアクティブラーニングをしてください。			約2時間
4. 「くらしといろ」(生活空間の色の役割)《近藤正一》				
生活空間には、ファッションをはじめ、商品、都市景観などあらゆる分野で色が利用されています。とりわけ環境色彩について着目し、正しい知識にもとづいて表現された生活空間がどのようなものであるかを解説します。				
予習	くらしのなかで色彩が役立てられている事例について考えてきてください。			約2時間
復習	講義を踏まえて環境色彩についてアクティブラーニングをしてください。			約2時間
5. 「色彩とデザイン -配色とテイストから-」《足立 元》				
デザインと色彩は密接な関係を持っており、デザイナーは色彩を計画的に用いてデザインの意図をよりの確に表現しようとします。実践的な配色法から、イメージを伝達する際に色彩が果たす役割を学びます。				
予習	参考文献「配色共感マップ(内田 広由紀 著)」や 色彩とデザインに関するWeb上の資料を事前に調査してく			約2時間
復習	講義を踏まえて配色の観点から身の回りのデザインを観察し、色彩表現について考察してください。			約2時間
6. サウンドデザインと芸術《星芝貴行》				
音の発生、音の伝播、音響感覚、音楽、騒音等々、音に関するあらゆる現象から、音楽における音創りや映像との融合など芸術分野まで踏み込んで、興味の持てる範囲でお話をします。				
予習	音の物理的性質と音の心理的効果について調べてください。			約2時間
復習	音と芸術の関係について考察してください。音は芸術足りえるのでしょうか。あなたなりの結論を導いてくださ			約2時間
7. 「『文芸』の読み方」《淵上千香子》				
取り扱う「文芸」は、近現代の小説や詩などです。「文芸」にはどのような技巧(テクニック)が使われているのか、具体的な作品を例示しながら解説します。作品を読み解くための方法を学び、それらを用いて「深読み」できるようになることを目指します。				
予習	興味のある小説や詩を1編(短編可、漫画は不可)読んできてください。			約2時間
復習	「予習」で読んだ作品を再読し、どのように技巧がなされているか考察してください。			約2時間
8. 哲学における美しさ《藪内聡和》				
世界には、多くの美しいものがあります。美しいものを美しいと認識する判断基準は、おおむね人間に共通であるといえます。それではなぜあるものを美しいといえるのでしょうか。そして、美しさを人間は共有できるのでしょうか。これについて、哲学者の学説を手がかりに考えてみましょう。				
予習	自分にとって美しさとは何か考えてまとめておいてください。			約2時間
復習	哲学と芸術について指示された内容でレポートの作成を行ってください。			約2時間

○授業計画	科目名	ヒューマンアート (Human Art)	授業コード	A030751
	担当教員	島岡 成治、近藤 正一、星芝 貴行、西村 謙司、坂井 美穂、藪内 聡和、足立 元、		
学修内容				
9. 「ともに生きるためのデザイン」《福田健》				
住宅には、暑さや寒さから身を守るシェルターだけではなく、家族や親族、近隣、地域の多様な人々とゆるやかに繋がっていただくための場としての役割もあります。 本講義では、2016年の熊本地震時に、建築家と住民が共同で仮設住宅団地のコミュニティ施設(みんなの家)の設計を試みた実践から、建築設計を媒介として人々の親しいまとまり(コミュニティ)を再構築することの意義について考えます。				
予習	「みんなの家」に関する活動について調べてきてください。			約2時間
復習	被災したコミュニティを支える場について、自分の考えをまとめてください。			約2時間
10. 「映像作品の芸術性」《小島 康史》				
映像作品が生みだされる一番大きな要因は、他の芸術と同様に作家の眼差しによるところが大きいです。映像作家はどのようなテーマを持ち、思考を巡らすのか。作り手と観客の間にあるものを演出という観点から、作品のシーンを題材に考察します。				
予習	映像作品の芸術性について事前に調査をして、発見したことをまとめてください。			約2時間
復習	講義を踏まえて映像作品における作家性とテーマについて考察をしてください。			約2時間
11. “自然からのメッセージ”を大切にす美しい心 ～宮沢賢治の自然観を題材にして～《杉浦嘉雄》				
童話作家として有名な宮沢賢治は、優れた理性の持ち主であると同時に優れた感性の持ち主でもありました。残された作品からも分かるように、賢治は理性と感性を介して周囲の自然や環境から、“自然からのメッセージ”を受け取り、それを文章に転写して「芸術」まで高めたのです。作品・個人史・自然観を通して、宮沢賢治の「美しい心の世界」を探求していきます。				
予習	『注文の多い料理店』(1924年)「銀河鉄道の夜」(未定稿)『風の又三郎』(1934年)を読んでください。			約2時間
復習	「よだかの星」を読んで、何を思いましたか。宇宙観、自然観、人生観、家族への思いなどについて考えてみて			約2時間
12. 「竹工芸における生活と美」《島岡成治》				
自然の素材である竹を使って、生活のための道具をつくる、人間の技(human art)としての竹工芸とその美について考えます。大分県は、別府を中心として竹工芸のメッカの一つであり、かつて生野祥雲齋という人間国宝を生み出した場所であることにもふれます。				
予習	大分県の竹工芸と竹産業と現代の問題について種々のメディアを介して調査してください。			約2時間
復習	調べたことと講義内容から竹のもつ美しさとその利用方法について、自分の考えをまとめてください。			約2時間
13. 「健康美を保つための食生活」《坂井美穂》				
『食べる』ということは、生きていく上での基本的習慣であり、私たちの体は『食べたもの』によってつくられています。「食べる」ことの意義「健康とは何か」について紹介し、健康的に生活するうえで、希薄になりがちな『食』を見直し、『健康美』とは何かについて皆さん自身が見つけ直し、考え、学ぶことをめざします。				
予習	20代における「食生活の重要性」について調査し、皆さん自身の食生活と比較し、事前課題ワークを行ってくだ			約2時間
復習	予習と講義を踏まえて「健康美を保つ」という観点から皆さん自身の「食生活」について考察し、レポートにまと			約2時間
14. 「ヒューマンコンピュータインタラクションとアート」《坪倉篤志》				
機械と人間との対話は、どの時代においても、非常に重要な要素です。近年の情報端末や技術の進化に伴い、非常に身近なものになりつつあります。本講義では、機械と人間との対話の過去と現在と未来について、解説します。その中で、この分野で活躍する人物や、近未来的な技術について紹介します。				
予習	各自で先進的と思える技術について調査してください。			約2時間
復習	講義で解説した事柄を元に、各自で今後の進化についてまとめてください。			約2時間
15. 「振り返り」と「小論文」《島岡成治》				
講義の振り返りを行うために、全体を通じての小論文を作成してもらいます。シラバスの「成績評価の指標」「成績評価の補足」および「その他」を参考にして、あらかじめ文案を作成しておいてください。なお、正式な期末試験は実施しません。				
予習	授業中に配布した資料を読み直して、「気づき」や「学び」を思い起こしておいてください。			約2時間
復習	これまでの授業全体を通じて、「人間と芸術」について再度考えてみてください			約2時間
16. 予備日				
予習				
復習				